

## 創立30周年を迎えて

校長 日野純一

京都府立久御山高等学校は本年で創立30周年を迎えます。昭和55年久御山町唯一の普通科高校として開校し、同年4月8日には山崎好章先生を初代校長として、普通科7クラス（生徒数316名）で第1回入学式を挙げております。

ここ久御山の地は山城の国のまほろばであり、日本書紀には、巨椋池の南岸に位置する栗隈の地は、灌漑用の大溝うなてが建設され空には白鷺が飛び交う稲作の盛んな地として紹介されています。昭和56年7月に策定された校歌に触れると、こうした歴史豊かな天地に、未来を担う若者達が陸続と輩出することを願う気持ちを強く感じます。

創立当初より質実剛健の気風を有し、昭和60年度には京都府の教育制度改革により、普通科にⅠⅡⅢ類を設置し、以後剣道やサッカーなどスポーツ活動の盛んな学校として地域に知られ、現在までに約9、300名の卒業生を送り出し、社会の様々な分野で活躍しております。この間の教職員をはじめ保護者、地域の皆様のご苦勞とご協力には大変なものがあったらと推察いたします。あらためて深く敬意を表したいと思っております。

本校の教育理念は設立当初から「自学・自律・自鍛」を校訓として、自立した人間の完成を目指してきました。2年前から地球規模の環境問題や経済の世界的なグローバル化を踏まえ、世界の人々とも助け合い、国際社会の平和に貢献しうる有為な人材の育成を目指して「共助」の精神を加えました。

本年創立30周年を迎えるにあたり、記念事業実行委員会が同窓会を中心に組織され、卒業生が集い、友情を確かめ合い、未来に羽ばたく誓いの場として「同窓のひろば」を中庭につくることになりました。ひろばの中央には校章のマークを配し、石壁を後背に舞台を設置したヨーロッパ調のひろばに仕上がっております。11月には桜を植樹し、今あるマテバシの木々とともに生徒達がくつろげる緑陰をつくってくれるものと期待しております。

舞台の背後には5本の石柱オベリスクが立ち、それぞれの柱には校章を中心に自学・自律・自鍛・共助の4つの校訓の文字が刻まれています。皆さんに久御山高校の教育理念である校訓を折に触れて心に思い出して欲しいとの願いを込めたものです。

久御山高校30年の歴史は、順風満帆に流れてきたわけではありません。時に楽しみ、時に逆境を乗り越え、どんな時も生徒と教師が一体となって苦樂をともにし、そうした時の重みを積み重ねて築いてきたものです。

私たち教職員一同は、この記念すべき30周年を機に、今一度原点に立ち返り、保護者の皆様方や地域の方々のご期待に応えるべく、久御山高校の教育の発展に鋭意努力する決意でおります。

今後とも保護者の皆様、地域や卒業生の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげ、ごあいさついたします。

